

目次

- 001 目次・編集方針
- 002 グループ企業理念・ビジョン・バリュー
- 003 トップコミットメント

日本郵船グループのESG経営

- 005 ESG経営の実装へ
- 009 マテリアリティ
- 012 多様なイニシアティブでの共創

安全

- 018 安全なくして成長なし

環境

- 029 環境マネジメント
- 032 脱炭素
- 057 海洋環境・生物多様性保全
- 060 サーキュラーエコノミー
- 064 大気汚染防止
- 065 グループ社員への啓発
- 066 ESGファイナンス

人材

- 069 人権
- 077 人材～個と組織がともに成長するために～
- 090 健康経営・労働安全衛生

その他

- 096 コミュニティ
- 099 サプライチェーン
- 101 知的財産
- 104 社会課題解決への挑戦

ガバナンス

- 115 コーポレート・ガバナンス
- 126 リスクマネジメント
- 128 コンプライアンス
- 133 株主・投資家との対話

企業情報

- 135 会社概要
- 136 社会からの評価

編集方針

サステナビリティに関する取り組みに関心が高いステークホルダーの皆さまへの情報発信およびコミュニケーションツールとして、日本郵船グループでは「サステナビリティレポート」を発行しています。「サステナビリティレポート」は2019年から2022年の期間に発行していた「ESGデータブック」を改称・進化させたもので、2024年より発行を開始しました。ESG(環境・社会・ガバナンス)課題解決に向けて取り組んださまざまな活動の実績・データ等をマテリアリティ別に取りまとめ、報告しています。

対象範囲

日本郵船(株)を中心とした国内外連結グループ会社の活動。活動分野ごとに主要な対象会社が異なる場合は、対象範囲を記載しました。

参考にしたガイドライン

- ・GRI「サステナビリティ・レポートング・スタンダード」
- ・ISO26000
- ・国連グローバル・コンパクト
- ・環境省「環境報告ガイドライン2018年版」

対象期間

2023年4月1日～2024年3月31日
(一部の取り組みや活動、データなどはそれ以前または直近のものも含みます)

発行時期

2024年11月

将来見通しに関する注意事項

本データブックには、リスク・不確実性を内包した将来見通しが記載されており、実際の結果とは異なる可能性があります。これらの見通しは、現時点での情報に基づいており、過度に依拠できないことをご承知おきください。

グループ企業理念

Bringing value to life.

ビジョン

当社のありたい姿

総合物流企業の枠を超え、中核事業の深化と新規事業の成長で、未来に必要な価値を共創します。

バリュー

企業理念を実現するために、社員が共通して持つべき「価値観」

誠意

うそいつわりのない心・私利私欲のない心。まごころ。
お客様をはじめ、相手を尊重して、相手の立場を徹底的に考え抜く気持ち。思いやり。

創意

これまでだれも考え付かなかった考え。新しい思い付き。
現状に満足せず、より良いものにするための『原動力』、つまり『変革』や『挑戦』。

熱意

一途にそれに打ち込んでいる気持ち。熱心な気持ち。
困難なものに対して、継続して達成するまでやり遂げる熱い思い。



トップコミットメント



自ら考え、自走する組織へ

2021年2月に「NYKグループESGストーリー2021」を発表して以降、当社グループは毎年、その進捗を「ESGストーリー」という形で示してきました。2023年11月には、最新の成果をお伝えする「NYKグループESGストーリー2023」を、脱炭素社会の実現に向けたより具体的な取り組みをまとめた「NYK Group Decarbonization Story」とともに発表しました。「NYKグループESGストーリー2023」では、同年3月に発表した中期経営計画（以下、中計）でお伝えしきれなかった非財務情報も合わせてお示ししています。

2023年度には、人的資本のさらなる高度化に取り組む指針として、「日本郵船グループCX Story」を取りまとめました。世

界中のグループ社員にもっとワクワクしながら働いてほしいという私の強い思いに、Chief Human Resources Officerを筆頭とする人事グループのメンバーが真剣に向き合い、具体的にまとめてくれました。当社グループでは35,000人を超えるグループ従業員のうち、およそ8割を日本以外の外国籍人材が占めています。日本企業が日本を基点としてグローバルに展開するという発想ではなく、「Global Company Head-Quartered in Japan」というコンセプトのもと、真のグローバルカンパニーに必要な人材像の設定と、それを実現する上で必要な制度やキャリアパスを整えていく方針です。

ESGストーリーをはじめとする各ストーリーは、「安全」「環境」「人材」という3つのマテリアリティをベースに、徹底的に議論を積み重ね、具体的な施策や計画に落とし込んだ内容となっています。世界中の拠点で説明会を開催する中で、参加者からはこれまで以上に熱意のこもった意見や質問が寄せられており、本社主導の一方通行的な施策ではなく、現場自ら考え、形にするという、当社グループが目指しているESG経営が本格的に自走し始めたと感じています。

脱炭素目標達成への揺るぎない決意

当社グループは、船舶の運航を中心とする物流事業を展開している企業グループです。船舶による海上輸送においては主に重油を燃料としているため、多くの温室効果ガス（以下、GHG）を排出します。つまり、当社グループがGHG排出量を削減していくためには、船舶からの排出をいかに減らしていくかが重要なテーマの一つとなります。また、物流事業はさまざまな産業やサプライチェーンと密接に関わっており、当社グループ単独での取り組みでは排出量削減が容易ではない業界でもあります。

そこで、新たに発表した「NYKグループESGストーリー

2023」と「NYK Group Decarbonization Story」では、中計で設定した目標からさらに踏み込んだ脱炭素目標を掲げました。まず、2050年の排出量ネット・ゼロを絶対に達成するという意識を強くするために、基準年比較の効率目標から総量目標へ切り替えました。そして、従来のパリ協定2.0°Cシナリオではなく、より厳しい1.5°Cシナリオに準拠させた上で「2030年度にScope1,2におけるGHG排出量を2021年度比で45%の排出量削減」という極めて野心的な中期目標を設定しました。その目標の達成のために、現在利用可能な技術や、近い将来に利用可能となる技術を持ち寄ることで削減目標の達成を目指すのではなく、45%削減を達成するためにはあらゆることに取り組んでいく、という考えに転換し、技術革新や取り組みの加速、ステークホルダーとの共創を促進していきます。グローバルにサプライチェーンを支えている物流事業の脱炭素化なしには社会全体のカーボンニュートラルは達成できないという課題意識の下、GHG排出量削減に真摯に向き合い、真剣に取り組むことが当社グループの持続可能な成長につながるものと考え、全社一丸となった取り組みを推進していく決意です。

当社グループの取り組みと目標に向けた進捗について、今後も丁寧かつ積極的に発信し、より質の高い対話を実現していくことで、当社グループだけでなく、海事産業、そして社会全体で脱炭素への取り組みを加速させていきます。ステークホルダーの皆さまにおかれましては引き続き当社グループへのご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

2024年4月
代表取締役社長

曾我 貴也